

第1回 「宮津わかもの会議」 開催報告書



「宮津わかもの会議」実行委員会

はじめに

私は高校生の頃から地元である宮津市で何かしたいと思っていました。1 回生の時にアイデアブックを作り、それがきっかけとなり、母校の宮津高校とも関わりを持つことができました。しかし、直接宮津市で何かをする、ということとはできていませんでした。何かしたいけれど、具体的に何がしたいのかもよく分からない。そんな時に、杉岡先生に「宮津わかもの会議」の提案をいただきました。「ぜひ」という二つ返事で、実行委員長としてこの「宮津わかもの会議」を進めていくことになりました。このように大きなプロジェクトのリーダーをする経験があまりなかったため、分からないことばかりでしたが、他のメンバーの助けを得て、なんとか第 1 回を終えることができました。

第 1 回の開催は平成最後ということで、サブタイトルを「平成生まれの 30 歳以下の 30 名による 30 の宣言」としました。しかし、実際は 30 歳以下のわかものだけで 30 名とはいかず、企画の難しさを痛感しました。例えば、チラシを配布するにあたって、開催本番の日は高校生の忙しい時期であるということや、チラシはどこに配布するとより効果的なのか、ということも現場での活動を通して学びました。

「宮津わかもの会議」を進めていく中で、数多くのつながりが生まれました。実行委員については、私の後輩に声をかけ、後輩が友達に声をかけたことにより結成に至りました。そこに丹後にゆかりのある TEAM 旦波の方に加わっていただき、さらに新たな人とのつながりが生まれました。

開催当日の様子を見ても、ワークを通して参加者同士での多くの交流が生まれました。ここでの交流が今後につながっていくことで、また何かおもしろいことが生まれるのではないかと、今ある人とのつながりが、また新たな人とのつながりを生み出すのではないかと、ということなどを肌身で感じた次第です。

今回このような機会をいただけたことに大変感謝しています。第 1 回で終わりにするのではなく、今回出た「30 の宣言」を実現させるために活動を続け、第 2 回、第 3 回とこれからも開催し続けていければと考えています。

最後になりましたが、この報告書を通して、今後もさらに多くのわかものに参画いただき、共に宮津市を盛り上げていければ幸いです。

「宮津わかもの会議」実行委員会

実行委員長 高原 望乃

(福知山公立大学地域経営学部2年生)

目次

はじめに	2
1. 概要	4
2. チラシ	7
3. グループワークの内容	9
4. アンケート結果	17
5. 宮津わかもの会議 30の宣言	19
6. メディア掲載	22
7. その他資料など	28
8. スタッフ等感想	30
おわりに	31

【 1 . 概要】

1. 日時

2018年12月26日(水) 9時～17時

2. 場所

宮津市福祉・教育総合プラザ 3階 第1コミュニティルーム

3. 主催

「宮津わかもの会議」実行委員会

4. 共催

福知山公立大学（北近畿地域連携センター、実践教育専門委員会）、宮津市

5. 協力

特定非営利活動法人 TEAM 旦波

6. 参加人数

38名

(内訳)

大学生6名（実行委員4名、福知山公立大学2名） ※うち1名は講師も兼任

高校生8名（海洋高校生1名、宮津高校生3名、宮津高校OB1名、暁星高校生3名）

社会人12名（宮津市地域おこし協力隊5名、自治体職員6名、その他1名）

講師2名（Mおいしいグルメ開発研究所所長の小松美香氏、上宮津地域会議の八尋慈教氏）

オブザーバー4名（城崎雅文宮津市長、西村紀寛京都府丹後広域振興局長、井上正嗣

元宮津市長、杉岡秀紀福知山公立大学北近畿地域連携センター長）

その他6名（宮津市役所職員2名、宮津高等学校職員1名、一般聴講者3名）

7. スケジュール

9時～ 開会挨拶（実行委員長：高原望乃）

9時10分～ 第1部 講演

(1) 濱田 祐太 氏「“わかもの” から始めるまちづくり～半径5mの小さな課題から～」

(2) 小松 美香 氏「まちを育てるということ」

(3) 八尋 慈教 氏「かみやづの地域振興は出来ることから！」

12時10分～ 昼食・休憩

13時30分～ 第2部 ワークショップ

テーマ「宮津愛を高めるためにわかものができること」

15時40分～ 全体発表・まとめ（投票）

16時40分～ 講評

- ・八尋 慈教氏（上宮津地域会議 代表）
- ・西村 紀寛氏（京都府丹後広域振興局長）
- ・城崎 雅文氏（宮津市長）

16時55分～ 閉会挨拶（福知山公立大学北近畿地域連携センター長：杉岡秀紀）

17時～ 集合写真・解散

8 当日の様子



（会場全体の様子）



（濱田氏の講演の様子）



（小松氏の講演の様子）



（八尋氏の講演の様子）



(グループワークの様子①)



(グループワークの様子②)



(全体発表の様子①)



(全体発表の様子②)



(講評の様子)



(集合写真)

【2. チラシ】

まちかどキャンパス事業（地方創生交付金事業）@宮津

宮津わかもの会議

平成生まれの30歳以下の30名による
『宮津の30の未来』を考える会議

2018/12/26（水） 受付8：30～

宮津市福祉・教育総合プラザ

宮津シーサイドマートミップル

3階 第1コミュニテイルーム

第1部 9:00～12:10

講演会

～地域活性化の取組～

講師：Mおいしいグルメ開発研究所

所長 料理研究家 小松美香氏

特定非営利活動法人チーム旦波

理事 濱田祐太氏

上宮津地域会議 代表 八尋慈教氏

第2部 13:30～17:00

「宮津の未来」を

考えるワークショップ

～宮津愛を高めるために

わかものができること～

参加費 無料

※ただし、

お弁当・お茶・お菓子代実費として

大学生・社会人1000円

高校生以下500円

主催 「宮津わかもの会議」実行委員会

共催 福知山公立大学

（北近畿地域連携センター・実践教育専門委員会）

宮津市

協力 特定非営利活動法人TEAM旦波

宮津わかもの会議って・・・??

宮津わかもの会議は、「若者目線から宮津市の未来について語り合い、未来を実現するための行動を宣言し、行動へとつなげる」ことを目的に、福知山公立大学の学生が主体となり実行委員会を立ち上げたものです。今回、第1回宮津わかもの会議の開催にあたり、宮津市の未来について共に考え、行動する仲間を募集しています。

タイムスケジュール

8:30~	受付
9:00~9:30	開会 挨拶・概要
9:30~9:40	アイスブレイク
9:40~12:10	講演会
12:10~13:30	昼食
13:30~15:30	グループワーク
15:30~16:00	まとめ
16:00~16:40	発表
16:40~17:00	閉会 講評・挨拶



Mおいしいグルメ開発
研究所 所長
料理研究家 小松美香氏

宮津にて4年半、レストラン「mogmog」のオーナーシェフを務める。宮津在住中、地域の魅力発信イベント「みやさんば」「ココ丹後」も実行委員を務め、宮津市の給食監修、地元農家や味噌屋とのコラボ企画など、食を通じて食文化、歴史や食材にスポットをあてる。2018年、故郷舞鶴に帰り、レストラン「もぐもぐ」をオープン。宮津の総合福祉施設「マ・ルート」内のカフェ「TEO-TORI」、京丹後フルーツトレイル、久美浜駅のカフェのメニュー監修を行う。

☆参加者受付中☆

参加方法

- ①1部(午前)のみ参加
- ②2部(午後)のみ参加
- ③1部、2部ともに(終日)参加
→3つから選択

締め切り 12月19日(水)

申し込み方法

Googleフォームより

<http://u0u0.net/NAU9>



平成8年生まれ。京都府与謝野町出身。高校生の時から「地域活性化」に興味を持ち、大学入学後、ふるさと京都府丹後地域でインターン事業に従事する。現在は、都市部の人材と地域企業の複業マッチング事業を立ち上げ、人々と地域に新たな可能性と選択肢を創ることに注力している。



特定非営利活動法人
チーム旦波
理事/関西学院大学法学部
4年 濱田祐太氏



上宮津地域会議
代表 八尋慈教氏

昭和25年生まれ。宮津高校を卒業後、京都市内で就職。造園業・花屋での勤務や教念寺の住職などを経験。昭和55年、堀川オート工業株式会社に勤務。平成13年、同社の社長に就任し、平成28年退社。平成15年4月からの7年間、上宮津21夢会議の代表を務める。平成29年4月から、上宮津地域会議の会長、上宮津自治連合会の会長を務めており、大学などの連携による知恵と人材確保、様々な取組の事業化に力を入れている。

☎0773-24-7151

✉ miyazu.wakamono@gmail.com

Twitter▶@miyazu_wakamono Facebook▶宮津わかもの会議

【3. グループワークの内容】

(①グループ)

1. 議論の進め方

- ・アイスブレイク：自己紹介（名前・所属・出身・宮津の好きなところ）
- ・ワーク：テーマ「宮津愛を高めるためにわかものができること」

2. メンバー

実行委員 1 名、高校生 OB（大学生） 1 名、地域おこし協力隊 2 名、市職員 1 名

計 5 名

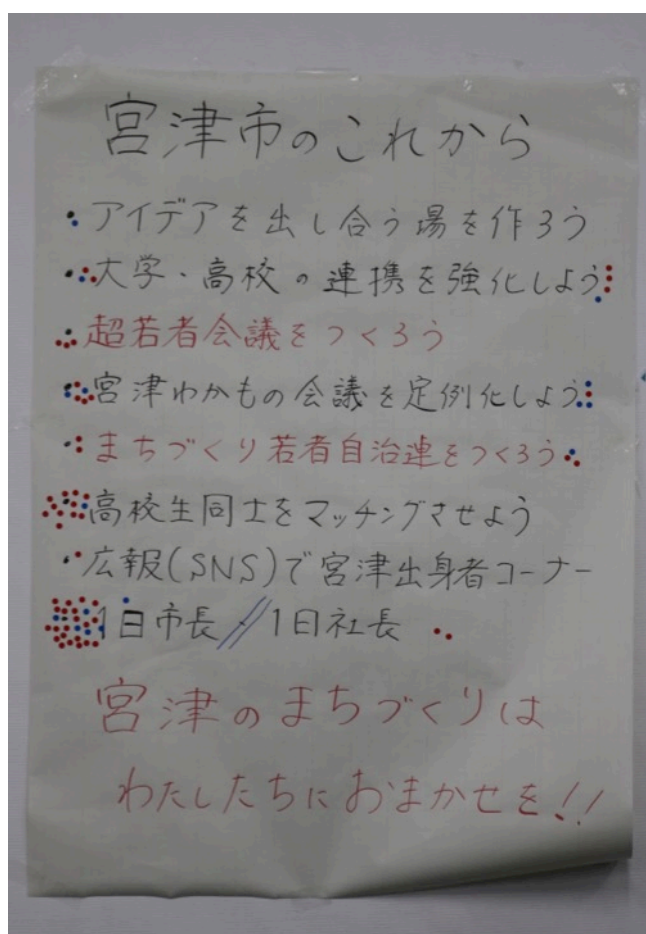
3. 議論内容

- ・「どうしたら宮津愛が高まるのか」について意見を出し合う
地元のことを知らないから、地元愛が高まらないのではないかな？
→地元の魅力を知ること、宮津愛は深まるだろう
- ・宮津市には田舎の良さがある
田舎暮らしに求めることは、心の豊かさ
田舎はチャレンジの場
→特にわかものは、話題性もあり、周りから応援してもらいやすいのではないかな？
→ライバルも少ない
- ・宮津市内でできること・市外やその他でできることは何か？
- ・これらを踏まえ、3つの視点（現状・課題・理想）からテーマについて考える
- ・3つの視点の中で出た意見をさらに2つに分ける（これまでの宮津市・これからの宮津市）
- ・全体として出たアイデアを模造紙にまとめる

4. 考察

初めてのファシリテーターということで議論を進めていくのに苦戦したが、メンバーの皆さんの協力により、それぞれがしっかりと意見を出し合い、話を進めていくことができた。しかし、模造紙にまとめるまでに時間がかかってしまい、全体発表の時間にも間に合わなかったため、時間の調整も難しいと感じた。出たアイデアの中には魅力的なものもあったため、ぜひ実現に持っていけたらと思う。ファシリテーターとして至らない点ばかりで反省も多いけれど、ワークでの進め方や出た意見の中から学ぶものは多くあった。

5. 当日の様子



文責：高原

(②グループ)

1. 議論の進め方

我々は、ワークショップの題材となる宮津愛を「宮津に関心のある状態」と定義した。よって、本ワークショップにおいては、宮津に関心のある状態をいかに高めていけるのか？という議論を行った。

我々は、3段階の状態変化を想定し、宮津愛を高めるという状態を可視化した。具体的には、「想い」「語り」「形にする」ということである。宮津に対して想い、口に出して語り合う、そしてそれを形にする。このように宮津愛を高めることを目標に10の宣言を作成した。

2. メンバー

実行委員1名、大学生1名、高校生1名、地域おこし協力隊1名、市職員1名

計5名

3. 議論内容

【想い】

- ・フィールドワークなどで町中を歩く機会を作る
- ・隣町に出向くことで、宮津と比較する機会をつくる。
- ・観光客にアンケートをとり、宮津を客観的に見る機会をつくる
- ・若者向け広報・通信を積極的に読む。

【語り】

- ・わかもの×◎◎会議
 - ↳地域（自治会）、他の学校の生徒、先生、市長、市役所職員
- ・ネット上でわかもの会議を開催する。
 - ↳LINE や Facebook グループを活用する

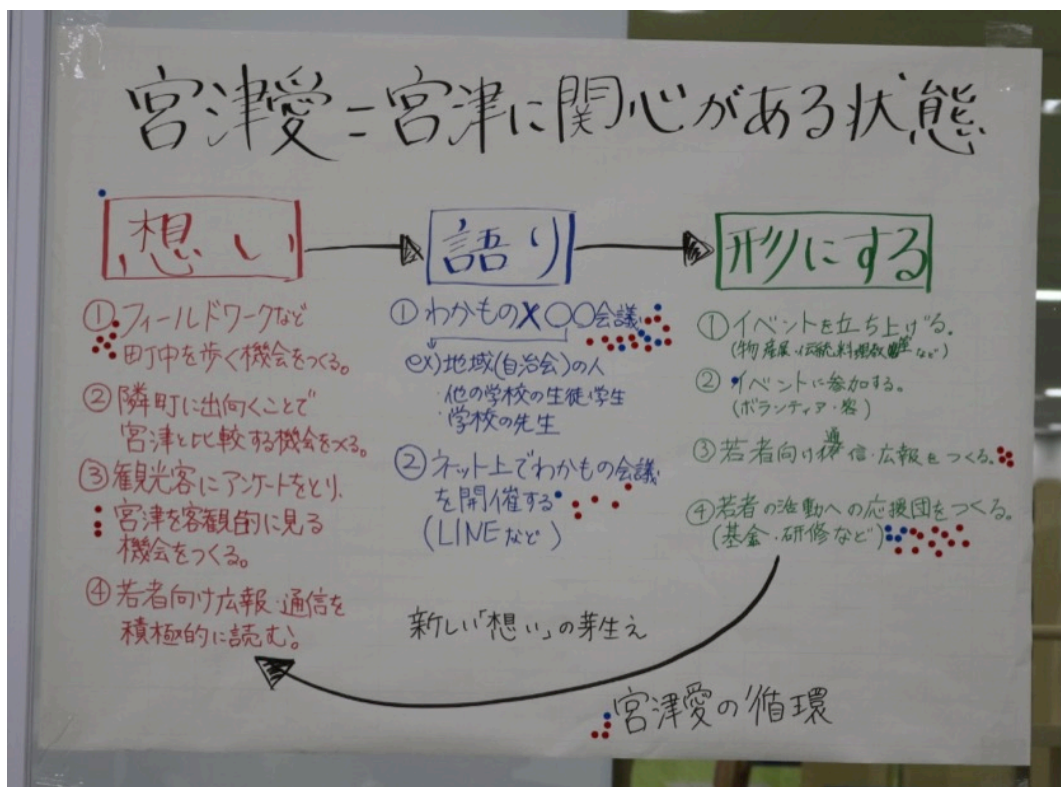
【形にする】

- ・イベントを立ち上げる。
- ・既存のイベントに参加する。
- ・若者向けの広報誌を作る
- ・若者の活動への応援団を作る（基金・研修など）

4. 考察

これらの10の宣言を元に、若者が「興味を持ち」「発信をして」「行動する」ことで、他の若者が「興味を持つ」きっかけになるという宮津愛の循環が産まれるようになれば、理想であると言う話をした。

5. 当日の様子



文責：濱田

(③グループ)

1. 議論の進め方

アイスブレイク（名前、所属、出身、宮津市の好きな所）

→ワークショップのテーマについての議論

- ・まずそれぞれ自己紹介をして緊張を解こうと思っていたが、初対面であるのと年齢層がバラバラだったため、最初は皆が緊張して沈黙が続いた。
- ・宮津愛を高めるために、はじめにそれぞれが宮津の好きな所や魅力のある所を付箋に書き出した。
- ・それぞれの手が止まってきたくらいで、一人ずつ付箋に書いたことについて発表していった。
- ・次に模造紙に付箋をジャンル分けして貼っていった。
- ・付箋に書いてある興味のあることについて話し合いながら、それぞれで他の付箋に書いてあるものを組み合わせた。
- ・アイデアが一目で関心を引くようなネーミングにした。

2. メンバー

実行委員 1 名、大学生 1 名、高校生 1 名、地域おこし協力隊 1 名、市職員 1 名

計 6 名

3. 議論内容

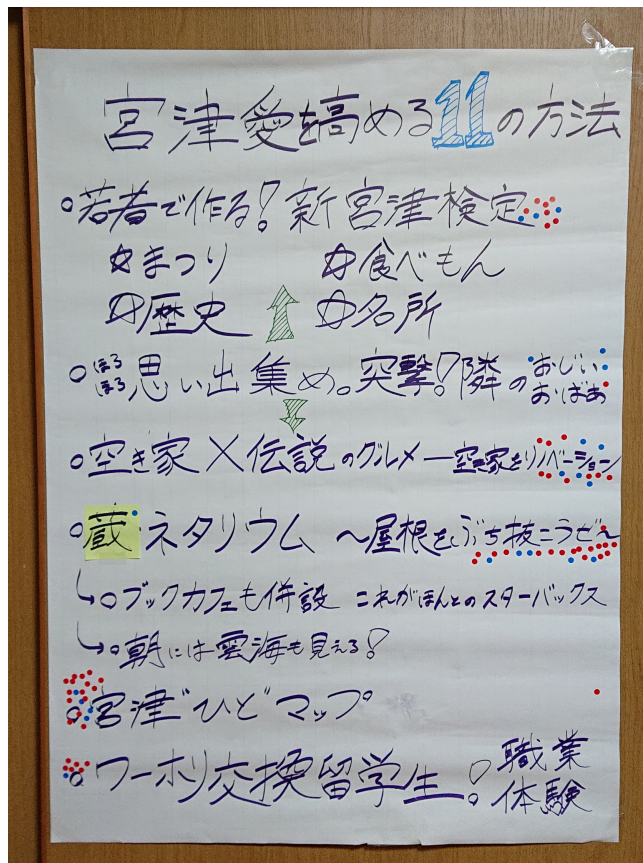
○話し合いの中では以下の内容が交わされた。

- ・宮津外の人に宮津を好きになってもらう前に地元宮津に住んでいる人に好きになってもらわないといけない。
- ・宮津に住んでいる高校生からの授業でのエピソード。
- ・宮津に移住してきた人が抱えている悩みや問題。
- ・それぞれが過去に体験したことなどやテレビ番組で見たものなどで、今回のテーマに生かせそうなものの共有。

4. 考察

ファシリテーターとして、進行を上手くすることは出来なかったけど、みんなで話し合っ、宮津のことについて盛り上がりたりと賑やかにできたのでよかった。
年齢が色々だったけど、各々が意見をしっかり述べる事が出来て良かった。

5. 当日の様子



文責：三根

(④グループ)

1. 議論の進め方

アイスブレイク（名前、出身、所属、宮津の好きなところ）
→意見を出す→ジャンル分け→まとめ

2. メンバー

- ・ 実行委員 1 名、高校生 1 名、地域おこし協力隊 1 名、市職員 2 名

計 5 名

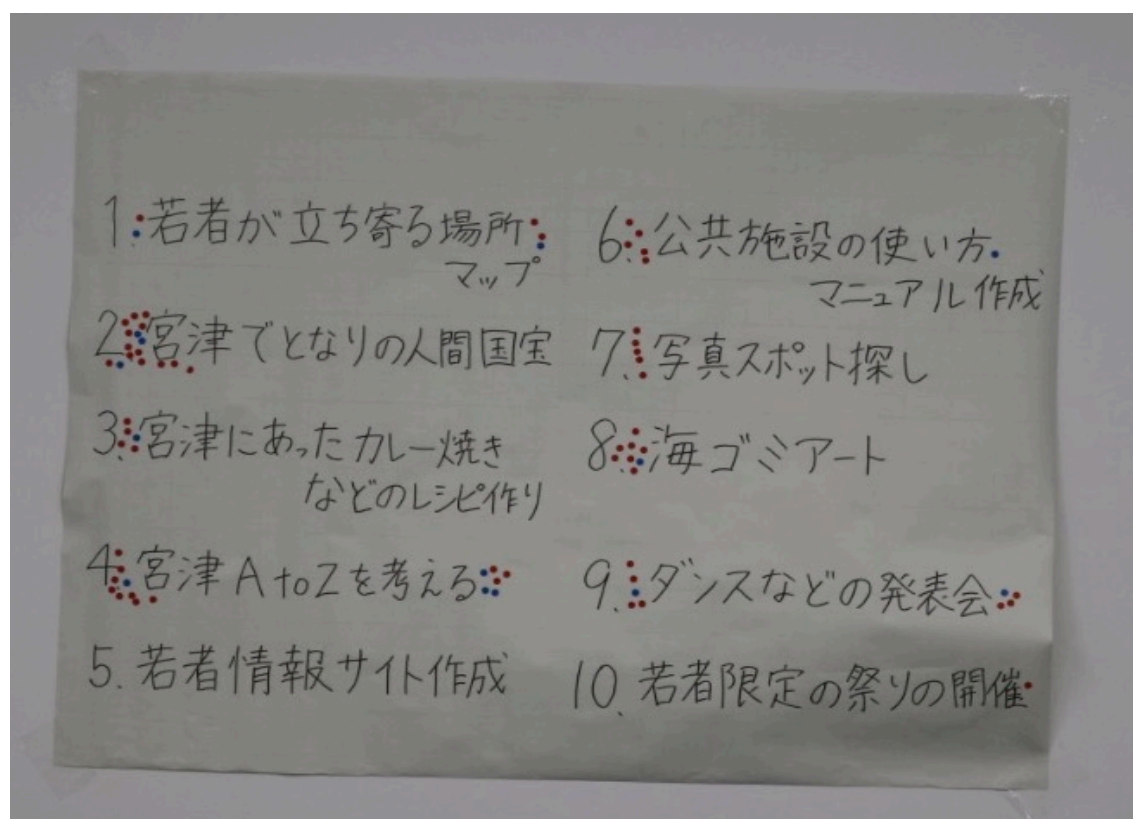
3. 議論内容

- ・ 初めに自分が思いつく意見を付箋にたくさん書いてもらい、模造紙にはった。
- ・ 最初は、宮津にあったらいいものなどを考えた。一番多かったものは、スポーツなどができる場所や楽しめるイベントであった。お仕事での気づきからの意見や移住されてほしいと思ったこと、高校生ならではの意見など多くの意見が出た。（海ゴミアート、わかもの目線の観光マップ、品揃えの良い文房具屋）
- ・ それから、5 分ほど他の班の意見を視察に行った。視察することでさらに意見も増えた。
- ・ 意見を出し切ったら、自分が書いた意見をどのような思いで書いたかなどの説明をした。
- ・ そのあと似ている意見や同じ意見をまとめ、ジャンル分けを行った。
- ・ たくさんある意見の中から一人 2~3 個ほど選んだ。
- ・ 選んだ中で話をさらにまとめた。
- ・ 最終的に 10 個模造紙に書き出した。

4. 考察

初めてファシリテーターとして話を進めたが、意見をまとめるのがとても大変だった。だが、チームの皆さんと一緒に頑張ってまとめ、少々時間を超えてしまったが何とかまとめることができた。世代は近いが同じではないので、自分と違った意見の方がたくさんおられ、たくさん学ぶことがあった。

5. 当日の様子



文責：一井

【４． アンケート結果】

(N=23)

問１ あなたご自身のことについてお聞かせください。

(１) 性別

男	女
12	11

(２) 年代

10 代	20 代	30 代	40 代以上
8	7	6	2

(３) ご職業

中学生	高校生	大学生	自治体職員	地域おこし協力隊	その他
0	7	3	6	4	3

(４) ご出身

宮津	宮津以外の北部	その他	宮都市 高槻市 南丹市 兵庫県川西市 宇治田原町
8	6	9	

問２ どのような形で参加されましたか

参加者	傍聴者	無記入
20	2	1

問３ 第１部の感想について

良かった	ふつう	あまり良くなかった	無記入
15	2	0	6

理由

- ・ 20 代、30~40 代、50~60 代の層の話が聞けて良かった。(複数回答)
- ・ ハマダさんのようにグループ毎に話す機会をいくつか設けることで集中力が持続した状態で良いプログラムになると思う。
- ・ お話を聞いて自分を見つめ直すという有意義な時間になったことと思います。志高く、勇敢に活動されている姿がとてもかっこいいなと思った。

- ・今まで知らなかった取り組みが多く、とても勉強になりました。
- ・大変興味深かった。(複数回答)
- ・お話を聞いて私も何かやってみようと思った。
- ・自分の地域の課題などを改めて知ることができた。
- ・どのような活動をされているかしれた。
- ・高校生なので何もできないと思っていたが、高校生だからこそ地域に貢献できるチャンスがあると分かった。
- ・将来のためになった
- ・みやさんぽに参加したが、根底にある思いを知ることができた。
- ・「みやさんぽ」の企画者からまち活性化の原理を教えていただいた。
- ・ストーリー、スキーム、スキル、システム、ソリューション、スピリッツがあった。
- ・とてもキラキラした活動をされていてすごく刺激を受けました。
- ・地域で率先して動いているひとのお話は面白かった。
- ・積極的に動くことが大切だと分かった。
- ・地方とのつながりが大切であると感じた。
- ・全員のパワポ資料があるとうれしい。

問4 第2部の感想について

良かった	ふつう	あまり良くなかった	無記入
15	3	0	5

理由

- ・テーマを限定してもよいと思う。
- ・いろいろな人と交流ができ良かったと思います。(複数回答)
- ・よく話される内容ではあるがなかなか実感がつかめない。
- ・「宮津愛」を広く考えることができた。
- ・若者のニーズを感じることができた。
- ・若者世代の発想力に触れることができた。
- ・自分には考え付かないものもあり面白かった。
- ・自分の考えをまとめて話すことは難しいと思いました。
- ・これを実践することが大切である。
- ・勉強になった。
- ・こんなにもアイデアがでると思っていなくてびっくりした。
- ・斬新なアイデアにあふれていて面白かった
- ・中身のある議論ができてよかった。
- ・休憩をはさみつつ、ゆったりと話し合いができるとよいと思った。

・「文房具店がない」→「ネットで買う」が衝撃的

問5 全体で共有したいご感想やご意見がございましたらご記入ください

- ・京都北部で自分の町以外の周辺の町と交流することで自分の町の良さを知ることができる。今回、そういう視点を再確認したことで、他の周辺都市からの参加を増やすとよい。
- ・誰が実践するのか考えなくてはならないと思います。
- ・今回出たアイデアをたたいて実現の方向にもって行ってほしい。(複数回答)
- ・時間配分が良かった。
- ・時間の考え方を考えないといけなかった。
- ・こうした会議は固定したメンバーになりがちなので新規の参加者がどんどん増えるといいなと思います。
- ・宮津の人が宮津にこだわった活動を一人でも初めて行くことが大切。
- ・提案で終わらせてほしくない。誰がやるのか。

問6 その他、もっとこうすればよかった点などご意見、ご提案がありましたらご記入ください。

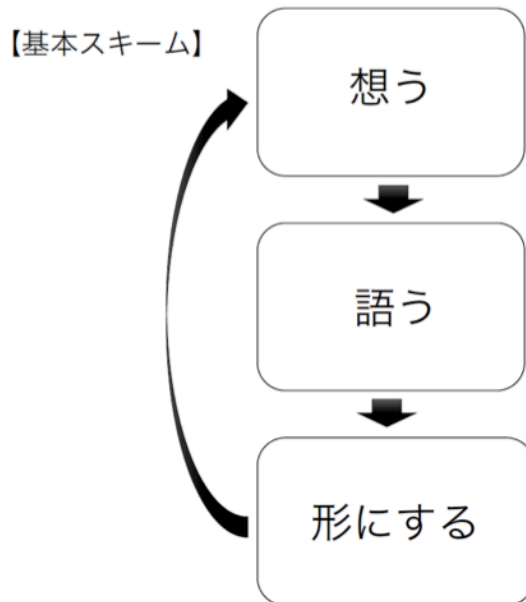
- ・次回はより具体的に、「天橋立の活かし方」など考えればよいと思う。
- ・第3グループは具体的でキャッチコピーがよかった。
- ・第1グループは最初の構想が良かった。
- ・第二回を楽しみにしています。
- ・進め方をある程度決めたら良かった。
- ・1部でも飲み物が欲しい。
- ・グループを一度解散させたり、メンバーを好感して他のグループとの交流・意見交換があると面白いと思う。

問7 もしも第二回宮津わかもの会議が開催されるのであれば、参加したいですか？

良かった	ふつう	あまり良くなかった	無記入
14	0	7	2

文責：一井

【5. 宮津わかもの会議 30の宣言】



思う

- ①町中をフィールドワークをする機会を作る。
- ②1日市長 / 1日社長を通じて町を知る機会を作る。
- ③宮津でとなりの“人間国宝”をして、魅力的な地域住民の可視化を行う。
- ④宮津人々MAPを作り、魅力的な地域住民の可視化を行う。
- ⑤公共施設の“使い方マニュアル”を作ることで、住民が地域に関わる機会を作る。
- ⑥“新宮津検定”を行うことで、地域のことを知ってもらう。
- ⑦アンケート調査を通じて、宮津を客観的に見る機会を作る。
- ⑧若者が立ち寄るMAP作ることで、若者が地域に触れる機会をつくる。
- ⑨宮津のAtoZを考える機会をつくることで、宮津の魅力を再認識する。
- ⑩思い出集め。突撃隣のオジイ、オバアを実施することで、昔の宮津の良さを若い世代に伝える。

語る

- ⑪ワーホリの交換留学生などと議論をする機会を作る。
- ⑫わかもの×「地域自治会」会議を行う。
- ⑬わかもの×「他の学校の生徒」会議を行う。
- ⑭わかもの×「市長・市役所」会議を行う。
- ⑮わかもの×「社長・企業」会議を行う。
- ⑯わかもの会議を定例化する。
- ⑰ネット上でわかもの会議を開催する。
- ⑱高校生同士をマッチングし議論を促進する。
- ⑲大学/高校の対話のための連携を強化する。
- ⑳わかものによるまちづくりのためのチーム（まちづくり若者自治連）を作る。

形にする

- ㉑海ゴミアートをして、楽しみながら地域課題を解決する。
- ㉒宮津のカレー焼きなどのレシピを作り、復活させる。
- ㉓高校生などによるダンス等の発表会を行う。
- ㉔蔵ネタリウム等の魅力的な場所を宮津に作る。
- ㉕空き家のリノベーションを行う。
- ㉖わかもの応援基金を作る。
- ㉗わかものを応援するための応援団を作る。
- ㉘わかものを応援するための講座を行う。
- ㉙写真スポット探しを行い、まちの魅力を可視化する。
- ㉚各種MAPを作ることで、魅力を可視化する。

文責：濱田

【6. メディア等掲載】

【イベント前】

宮津わかもの会議の参加者大募集！

「若者目線から宮津市の未来について語り合い、未来を実現するための行動を宣言し、行動へとつなげる」ことを目的に、福知山公立大学の学生が主体となり、「宮津わかもの会議」実行委員会を立ち上げました。

第1回宮津わかもの会議を開催します。宮津市の未来を共に考え、行動する仲間を募集します。

と き 12月26日(水) 午前9時～午後5時

ところ 宮津市福祉・教育総合プラザ(ミッブル)3階
第1コミュニティルーム

内 容 第1部：講演会

地域活性化の取組み 講師3名

第2部：宮津市の未来を考えるワークショップ

対 象 宮津市に関心のある中学生～30歳までの方
※出身は問いません

定 員 30人

募集期間 12月19日(水)までにメールで申し込みください。

申込・問合せ 宮津わかもの会議実行委員会

(E-mail) miyazu.wakamono@gmail.com

主 催 「宮津わかもの会議」実行委員会

共 催 福知山公立大学(北近畿地域連携センター)、
宮津市

協 力 特定非営利活動法人 TEAM旦波

(2018年11月20日 広報みやづ)

12/11 京都

宮津の未来若者で語ろう

宮津市の将来について意見を交わす「宮津わかもの会議」が26日、同市浜町の市福祉・教育総合プラザで開かれる。市出身の福知山公立大生らでつくる実行委員会が初めて企画し、市の課題や魅力づくりなどについて話し合う。実行委は平成生まれの30人を募集している。

チラシを手に、宮津わかもの会議の参加者を募る実行委員会の福知山公立大生（宮津市横堀手・市心校）



同大学の「まちかどサヤンバス事業」の一環。若者目線で市の課題を洗い出したり、魅力を発信するためのアイデアを出す。当日は2部制で、午前9時から12時、午後1時から4時。会場は市福祉・教育総合プラザ。参加費は無料。申し込みは12月15日まで。問い合わせは実行委員会（電話077-222-1111）。

26日、初の会議 平成生まれ30人募集 課題や魅力づくり探る

取り組む20～60代の3人が講演。午後のワークショップでは「宮津の未来」をテーマに、参加者の考えや市が抱える課題を共有し、それぞれが取り組みたいことをグループごとに発表する。

実行委員長で同大学2年高瀬望乃さん（20）は「同市上司は「さまざまな職業や年齢の人が新しい発想や知識を得て、自分や市の将来への第一歩につながるような会議にしたい」と意気込む。

参加無料で市出身や宮津に関心がある人が対象。見学もできる。参加申し込みは実行委メールアドレス miyazu_wakamono@gmail.com（只松亮太郎）

2018年12月11日 京都新聞

初の会合をPRする「宮津わかもの会議実行委員会」のメンバーら
—宮津市柳瀬手



宮津の活性化図る

26日「わかもの会議」

宮津市出身で福知山公立大学に通う学生らでつくる「宮津わかもの会議実行委員会」は10日、宮津市役所（同市柳瀬手）で会合し、26日に同市浜町の市福祉・教育総合プラザで第1回のイベント「宮津わかもの会議」を開くと発表した。

福知山公立大生ら

福知山公立大の「まちかどキャンパス事業」の一環で、学生らが学外に出て、地域活性化に関わる。

今回の同会議では、平成生まれで30歳以下の30人が集まって「宮津の未来を考えるワークショップ」を開くほ

か、地域活性化に努める3人の講演会もある。学生たちは「宮津の活性化のために提言を行いたい」としており、提言実現のために継続的に活動する。同会議実行委員長の高原望乃さん（20）は「地元が好きで、この活動を始めようと思った。この会議が、都市部に出ている若者が宮津に帰ってくるきっかけになれば」と話していた。

2018年12月11日 産経新聞

12/26（水）宮津わかもの会議を開催します

お知らせ | 2018.12.13

2018年12月26日（水）、宮津市福祉・教育総合プラザにおいて「第1回宮津わかもの会議」が開催されます。宮津わかもの会議とは、平成生まれ（30歳以下）の若者が30人集まり、宮津市や自分たちの将来について考える会議です。

この会議を企画する「宮津わかもの会議」実行委員会は今年の9月に始動しました。本学の杉岡准教授から提案され、委員長を引き受けたのが宮津市出身の高原望乃さん（地域経営学科2年生）です。「チームで物事を進めることに最初はとても苦労しました」と高原さん。実行委員会は本学の学生をはじめTEAM旦波や宮津市の職員など約10人で構成されていますが、メンバーの日程調整が難しく、オンラインで会議を行うなど工夫しながら準備を進めてきました。

当日のイベントは午前と午後の二部構成となっています。午前に開催される第1部では、宮津市やその周辺で活動している3名の方を講師に招聘し、地域での活動や若者に対する思いを語っていただく予定です。午後の第2部では、参加者によるワークショップを行います。「宮津愛を高めるためにわかものができること」をテーマに、自分たちが地域にできることについて意見を出し合い、最終的に30の意見にまとめます。まとめた意見は後日、宮津市長に報告する予定です。

今月末に迫る本番に向けて、「この会議には様々な世代や職業の方が参加するので、新たな知識や発見がたくさんあると思います。ここでの経験が自分達の将来に繋がることを期待しています。今後も毎年継続して開催することで、宮津を離れた方にとっても地元に戻る一つのきっかけになれば嬉しいです」と話してくれました。

参加をご希望の方は[Googleフォーム](#)からお申し込みください。



「宮津わかもの会議」実行委員長の高原望乃さん

（2018年12月13日 福知山公立大学ホームページ）

ホーム > イベント > 【イベント】集え、わかもん！宮津わかもの会議が開催されます！

2018.12.13 イベント

【イベント】集え、わかもん！宮津わかもの会議が開催されます！

まちかどキャンパス事業（地方創生交付金事業）◎宮津

宮津わかもの会議

平成生まれの30歳以下の30名による
『宮津の30の未来』を考える会議

2018/12/26（水）受付8：30～

宮津市福祉・教育総合プラザ

2018年12月13日 ふるさとブリッジ (<https://furusato-bridge.com/event/miyazuwakamono/>)

平成生まれで
未来を語ろう

宮津で「わかもの会議」

宮津市出身の平成生まれが集まって未来を考える「宮津わかもの会議」が26日に開かれる。福知山公立大の学生らでつくる実行委の主催。「若者目線で宮津市の未来について語り合いたい」と参加を呼び掛けている。募集は19日まで。

26日参加者募集

会場は同市浜町のミツブル3階第1コミュニティールーム。午前8時半に受け付けを始め、終了は午後5時。午前中は講演会。飲食店や自動車販売会社の経営を担った先輩たちに地域でのまちおこし活動について聴く。午後からのグループワークで意見をまとめる。午前・午後だけの参加も可能。無料。申し込みは実行委のアドレス（miyazu.wakamono@gmail.com）。【安部拓輝】

2018年12月14日 毎日新聞

【イベント後】

郷土愛を高めるための宮津市の魅力について話し合う
参加者たち(同市浜町・市福祉・教育総合プラザ)



若者を呼び込む宮津を

高校生や大学生、知恵絞る

宮津市の将来像を平成生まれの若者たちが考える「宮津わかもの会議」が26日、市福祉・教育総合プラザ(同市浜町)であった。高校生や大学生ら約30人が講演やグループ討論を通して「若者が帰ってくる宮津」の実現に向けて知恵を絞った。

福知山公立大(福知山市堀)の学生らでつくる実行委員会が初めて催した。

この日は府北部で地域振興に携わる男女3人が講演。「上宮津地

域会議」の八尋慈会長(68)は、休耕田や廃校プールでのホンモロコ養殖や、空き家への移住促進などを紹介した。

続くワークショップでは、郷土愛を高める方法話し合い、「祭りや自然など今ある宮津の魅力を磨く」「若者向けの店やイベントを開く」といった意見が上がった。

長野県出身の同公立大1年中島海咲さん(22)は「人を呼び込む可能性のある地域の魅力に、まずは地元の人気が付くことが大事だと感じた」と話した。(日松亮太郎)

2018年12月27日 京都新聞

朝日 1/9

宮津の未来盛り上げたい

わかもの会議 学生ら20人参加

平成生まれの若者たちが宮津市のまちの将来像を考える「宮津わかもの会議」が、同市浜町の市福祉・教育総合プラザであった。地元の高中生や大学生、市職員ら約20人が参加した。

宮津出身の福知山公立大生らが昨年9月、実行委員会を設立。会議では「宮津愛を高めるために若者ができること」を考えるワークショップに取り組んだ。

参加者は「空き家の土蔵を使い『蔵ネタリウム』を上映したら、星のきれいな宮津にお客さんが呼べる」「地元の人たちの得意分野や経歴を記したインターネット上の地図をつくれれば、住人間の親近感がわいて宮津愛が高まりそう」などと自由に提案した。

実行委員長で福知山公立大2年の高原望乃さん(20)は「まちの未来を若者が盛り上げ、会議での宣言を自分たちの行動につなげたい」と話した。(寺脇毅)

まちの未来像について語り合う若者たち＝昨年12月26日、宮津市浜町

2019年1月19日 朝日新聞

【7. その他資料など】

(宮津市成人式 2019 配布資料)



宮津わかもの会議

実行委員会

メンバー募集!!

宮津わかもの会議って・・・??

宮津わかもの会議は、「若者目線から宮津市の未来について語り合い、未来を実現するための行動を宣言し、行動へとつなげる」ことを目的に、福知山公立大学の学生が主体となり実行委員会を立ち上げたものです。第2回宮津わかもの会議の開催にあたり、宮津市の未来について共に考え、行動する仲間を募集しています。

・コチラで情報発信しています📧
Twitter▶@miyazu_wakamono

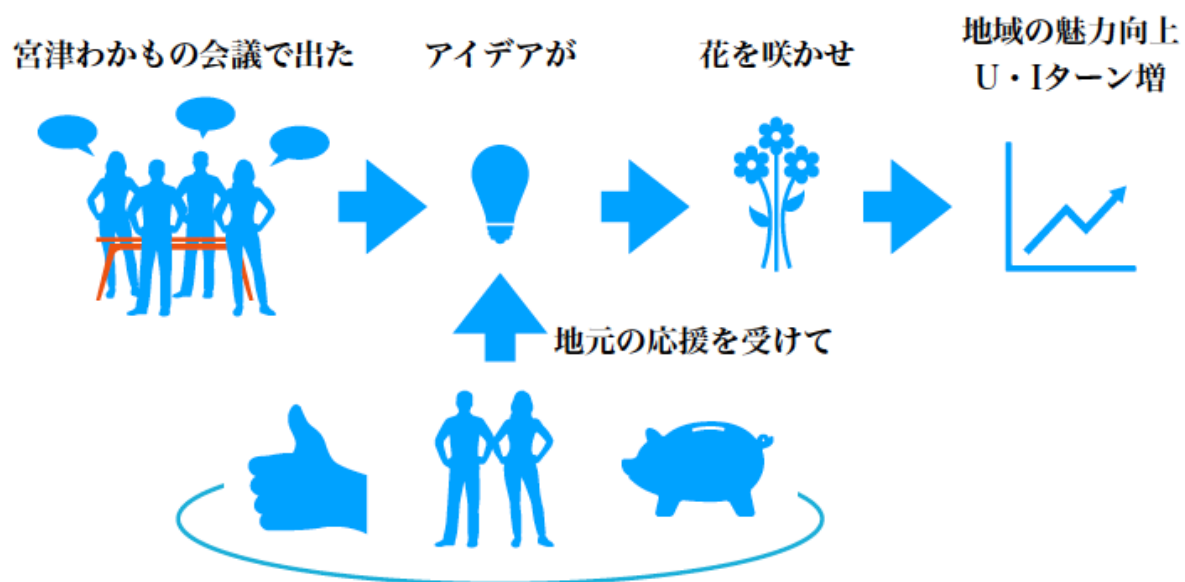
ぜひフォローしてください!!
Facebook▶宮津わかもの会議

・お問い合わせはコチラ📧
☎▶0773-24-7151 ✉▶miyazu.wakamono@gmail.com

主催 「宮津わかもの会議」実行委員会
共催 福知山公立大学 (北近畿地域連携センター・実践教育専門委員会)
宮津市
協力 特定非営利活動法人TEAM旦波

(わかもの基金のイメージ)

わかもの会議が地域の魅力を向上させるまでのイメージ



宮津わかもの会議で出たアイデアに、地元の人が（←ここが重要）
いいねと言ったり、手を貸したり、お金を出すことで応援できる仕組みがあれば、
アイデアが実現し、地域の魅力が向上し、U・Iターンが増などにつながる！

【 8. スタッフ等感想】

○今回、僕が参加した目的が「地元の同世代と街についてディスカッションしたい。」というものでした。普段から、宮津を始めとする丹後地域で活動していると、どうしても自分よりも上の世代の方々と関わる機会が多くなってしまいます。ただ、何か取り組みを行っていく上で大事なと思っていることは、「僕たち若者がこのまちをどうしていきたいか？」ということです。20年後、30年後の地域を担うのは、間違いなく僕たち若者なのです。今回は、そういった若者たちで宮津という街についてたくさんのディスカッションが出来たことが良かったと思っています。議論で終わらせるのではなく、行動に次はつなげていきたいと思います（濱田祐太）。

○僕は大学生のうちに宮津のために行うイベントなどを経験してみたいと思っていました。そんな中、実行委員長から今回のお話をいただき、実行委員として活動を行いました。初めての経験が多かったので、戸惑うことも多かったですが、たくさんの人たちにお世話になり、当日もなんとかやりきることができました。僕自身も、グループワークに参加して、様々な地域や年代の方との交流できました。その中で、自分の考え方とは違い、新たな発見もたくさん見つかりました。この会議で出た提言を一つでも実現できるように、今後も宮津のために貢献できたら良いなと思います（一井愛哉）

○みなさんが参加理由された理由とは少しズレているかもしれませんが、私は地元が長崎にあり、過疎化が進んでいる宮津市について考えることで、自分の故郷にも活かせることがあるのではないかと思います、参加しました。実際に宮津わかもの会議を開催するまでの過程で地元のことも考えていましたが、宮津市の良いところを多く知ることが出来ました。当日は宮津市の若者達の現状や、想いを知り、観光資源の有効活用や宮津市民ならではのアイデアを聞くことができ、資源を十分に使いきれていないことがわかりました。素晴らしく素敵でユニークなものばかりなので、みんなで出した33のアイデアを1つでも多く現実にできるようにまた新しい活動をしていきたいと思います（三根楓子）。

（共催団体）

○現在、まちづくりを進める中で、若者や女性の参加が少ないという課題があります。一人十色といわれるように、一人ひとりの価値観が多様化している今日においては、これまで以上に様々な立場の方々の意見を取り入れた協働でのまちづくりを進めることが必要です。今回、次代を担う若者が中心となり、宮津の未来を主体的に考え、行動に繋げることを目的に宮津わかもの会議が開催されたことは大変画期的であり、今後は、若者世代の仲間を増やすとともに、会議で提案されたアイデアの実現を目指し行動されることを心より期待しています。地域には、地域を元気にしたい、そのために行動したいと考えておられる方が必ずおられますので、是非、その方々とも連携しながら、世代を超えて地域の活性化に取り組んでいただきたいと思います。

（後藤大智／宮津市役所企画部企画政策課企画調整係）

おわりに—終わりは次の始まりのスタート—

第1回の「宮津わかもの会議」は、北近畿地域連携センターのまちかどキャンパス事業の一環として実施されました。しかし「わかもの会議」というからには、大人が主導するのではなく、わかもの、しかも宮津出身の大学生が主導した方が良く、との思いから、宮津高校出身の高原さんに声掛けしたところから実行委員会がスタートしました。そこから約半年。月1回の企画会議を中心に実行委員の4名の皆さんが、企画、参加者集め、当日のケータリング、SNSやHPによる広報など、四者四様の役割分担で本当によく頑張ってくれました。当日講演頂いた講師のお二人や講評に来てくださった宮津市長さん、丹後広域振興局長さんはもとより、当日集まってくださった宮津市内の高校生や大学生、地域おこし協力隊、若手の市職員の皆さんも実行委員会の皆さんが暗中模索中、必至で頑張っている姿への共感から集まったのでは、と素直に思います。ある種の「主客転倒」を仕掛けた一人として仕掛け冥利に尽きるというものです。

しかし、若者の視点からの地域づくりを考えますと、この第1回はゴールではなく、まだスタートに着いたばかりだと考えるべきだと思います。すなわち、ここで出された「30の宣言」をいかに実行していくか、その実行力が今後問われるという訳です。その意味では、宮津わかもの会議の第1回は終わったばかりですが、第2回の構想はもとより、第1回目のアイディアの実装のフェーズに入ったと理解しています。その際に一つのヒント（知恵）として、ぜひ、第1回の実行委員会の皆さんの「暗中模索力」と今回私が仕掛けた「主客転倒」を参考にいただければと思います。それはすなわち今回の（第1回）の参加者の巻き込みであり、実行委員会の拡大。一言で言えば「共感の輪の拡張」です。宮津の明るい未来に向かって、今後ますますの活躍に期待しています。終わりは次の始まりのスタートです。

杉岡 秀紀（福知山公立大学北近畿地域連携センター長）

「宮津わかもの会議」実行委員会

発行日：2019年1月31日

共 催：福知山公立大学（北近畿地域連携センター）、宮津市

実行委員：高原 望乃（委員長／福知山公立大学地域経営学部2年生）

濱田 祐太（関西学院大学法学部4年生）

一井 愛哉（福知山公立大学地域経営学部1年生）

三根 楓子（福知山公立大学地域経営学部1年生）

特別協力：小田太郎さん、小西裕真さん、中田愛さん、中山智貴さん、松本敏裕さん

京都北都信用金庫さん、WILLER TRAINS さん

twitter: <https://twitter.com/cx81B5EBBJ5MOSb>

facebook: <https://www.facebook.com/宮津わかもの会議-1896433737077860/>